

2009年3月24日発行

鵬 鷲

HOSAI

「鵬際」鵬は翼の幅3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬（おおとり）が飛ぶ（=はるかなかなたの）空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の目指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出す事によって一步一步目標に近付きたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬際」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願い致しました。

八代経済開発同友会
(通巻第100号)



<http://www.ytnet.or.jp/ykd/>
E-mail:yatsushiro_kkd@yahoo.co.jp



20年度を振り返り今後への思い

平成20年度 八代経済開発同友会

第45代 代表幹事 中村重之

長いようで短かった一年間でしたが、会員各位のご協力に感謝致します。

尚本年度は45周年にあたり、各種の記念事業を展開し実行委員長をはじめ、それぞれ担当をされた方々に併せてお礼申し上げます。

八代城復元の一步として北の御門復元運動を提案いたしました。その後の八代宮との協議の中で高麗門復元視野に入れておられることが判り「渡りに船」と言う思いです。実現可能性がもっとも高い史跡でありますので実現すれば、八代宮の参拝客や観光客の増加は勿論の事、中心市街地活性化にもつなげるものとして、本会も可能な限りの応援をすべきものと考えます。

さて、昨秋より世界や日本の経済情勢が一変しました。輸出が振るわず、雇用問題が社会問題化し、地方においては企業誘致もままならず、定住人口増も望めない状況となりました。

熊本経済同友会の小栗代表幹事の発言をお借りしますと、「農林業・エネルギー・観光産業」に力を入れなければならないという事です。

国が観光立国・県も観光立県を宣言されたことは誠に時宜を得たものと思います。県内外の各地域では、特産物や歴史、文化を生かした観光の発信に力を入れている事が連日のように新聞紙上を賑やかにしています。私達八代も時代の波に乗りおけないように、農業団体や観光団体に任せるのではなくて、お互いにタイアップし、或いは本会等の経済団体がリーダーシップを発揮して地域全体の経済浮揚が図られれば当然会員の発展にも繋げることが可能になると思います。

地方の発展には「観光しかない」と申し上げても過言ではないと信じています。論より行動です。何か一つでも行動を起こさないと取り返しのつかない事になりはしないかと心配しているのは私だけでしょうか？

以上、私の一年間の感想と反省、並びに今後への思いの一端を述べさせて頂きました。今後も、一会員として微力ながら頑張る所存でございます。

各委員会委員長挨拶

八代築城400年復元研究委員会 活動報告書

委員長 鋤馬把 祥 二



副委員長：和久田 数臣
委 員：緒方・湊田・荒尾
小島・豊島・綿田
工藤・西田・島・
統

◎八代築城400年復元研究委
員会の総括

本年度の委員会活動では本来のお城復元を研究調査の予定であったが、45周年記念事業の城下町PR看板設置に特化した委員会活動となった。

ただ八代宮宮司との折衝面談に於いて、城内整備事業として高麗門周辺の築城当時への整備と高麗門・欄干橋の復元計画にこぎつけ、2月末現在で高麗門・欄干橋を除いて築城当時の姿に復元され大きく前進した。あと10数年後に築城400年を迎えるにあたり、高麗門周辺の復元整備は当委員会の目指す目標であり、今回設置した城下町PR看板と高麗門・欄干橋史跡説明看板を市民に対しどの様に活用してゆくかが課題であり同友会としても今後、新たな町づくり活動に向けた取り組みが必要である事を当委員会の活動総括とする。

1. 45周年PR看板設置事業の報告

○昨年10月より市役所文化課の山崎氏と八代宮宮司竹原氏とPR看板設置について場所・看板内容・許可申請・維持管理の方向性などを協議し、竹原宮司のご理解ご協力により表参道大鳥居前の最高の場所にPR看板を設置する。

○看板規模は3.1M×2.3Mの両面掲示とし裏面は英文表記と致しました。

看板内容は正面左側にお城の歴史と経緯。中央に市街地図に城跡を平面化。

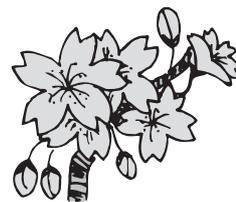
右側に現存するお城・史跡の写真と番号を付け、地図に振り付け写真を掲載。

看板裏に委員会会員名と正面支柱に同友会の記念事業である事を明記した。

○12月20日 午前10時30分より坂田市長・竹原宮司・お宮氏子代表その他の参列による除幕式を挙げる。12月23日45周年記念祝賀会にて坂田市長に対し、八代市への贈呈式を挙げる。施工費用は1,403,500円で当委員会の45周年記念PR看板製作事業を終了する。

2. 高麗門・欄干橋の史跡説明の看板設置事業の報告

○八代宮の整備事業として高麗門と欄干橋周辺の復元計画に着手。2月末には東門欄干橋周辺の参道樹木を全て伐採し築城当時の参道となる。これを受け、復元研究委員会の事業として、整備復元された参道に高麗門と欄干橋の史跡説明看板を設置。事業費50,000円で市民と観光者に10数年後に築城400年を迎えるにあたり、高麗門周辺の復元に向けた啓蒙を期待する。



観光開発発信委員会

委員長 吉岡 洋



平成23年春頃、新幹線全線開業を2年後に控え、八代は現状のままでは通過点となる可能性がおおきく、この事をすこしでも解消するためにはどうすればよいのか？

また、新幹線をはじめ交通網の発達はいままでは宿泊を伴っていた観光及びビジネス客が日帰りへと変化しつつあり、八代に滞留させ、消費してもらうためにどうするかを模索していく。

初めての委員会は上記の件を討議しましたところ、各委員より活発な意見が飛び交い皆様の関心の高さを心強く感じながら、ようやく活動方針を下記のとおり決定。

- ①八代独自の歴史・自然や農産物を知ると共に体験する。
- ②イベント（妙見祭・花火大会・スリーディマーチ等）を勉強する。
- ③旅行者や旅行雑誌に八代の観光情報やイベントを掲載してもらうには？

以上の三点を骨子に活動を下記のとおり実施しました。

- ①松濱軒 『肥後菖蒲と野点体験』
- ②ハウス栽培 『トマト収穫体験』ハチベートマト（白石会員宅）&ミニトマト（立石会員宅）
- ③『晩白柚オーナー制』への後援……
5月樹の抽選・7月受粉と摘果・12月収穫体験
- ④セミナー『妙見祭の現況と今後の展開』

講師 濱 大八郎・宮崎 博明両氏

一年間の委員会活動を通して行政をはじめ色々な業界や団体の方々が八代市の活性化に向け歴史や文化の掘り起こし&観光基盤の整備やブランド化やスポーツ大会の誘致など幅広く各方面で実施されており新しい観光の息

吹を感じています。

反省点としてメディアや旅行パンフレットに八代の観光記事がまだまだ少ない事は外部に対する宣伝不足であり、今後は『もっともっと八代の自然・歴史文化を宣伝していかなければならない』と痛感しました。

最後に同友会会員の皆様には御協力いただきありがとうございました。



企業経営委員会

委員長 神園 喜八郎



本年度の事業計画を、税法の改正を踏まえて事業承継にテーマを絞り、税・人・会社とシリーズでセミナーを開催する計画でしたが、関心度の高いテーマであったため、各

方面で多くのセミナー、勉強会が開催されていた事と、私の怠慢で手付かずになってしまいました。

又、11月に開催しました原材料高騰対応等緊急保証制度の説明会も、中小企業庁より講師を招いたにも関わらず、時期を少し逸してしまいタイムリーさを欠く結果となり、会員の利益に貢献が薄かったと反省しております。

委員長に指名をいただきながら、1年間の事業展開が出来ませんでした事をお詫び申し上げ、報告と致します。



スポーツ・文化企画振興委員会

委員長 松岡隆志



このスポーツ・文化企画振興委員会は、2006年度にスポーツ企画誘致委員会として新しく新設された委員会でした。当初より、その委員会を仰せつかり本年度で3年目を終え

ようとしています。

事業としては、3年前から開催している「Yatsushiro Cup 高校選抜バドミントン大会」を2月に行いました。3回目になるとスムーズな運営ができるようになり、無事にトラブルなく事業進行することができました。九州内外のトップクラスのチームだけが参加できるこの大会は、参加の要望が多いのですが男女24チームにこだわり続けたことにより、充実した大会に発展しつつあります。この大会は、委員会がよかところ宣伝隊との窓口を務め、八代東高校・八代白百合学園高校の監督と実行委員会組織をつくり運営しているため経済開発同友会会員の皆様はあまり耳にされないと思います。なんとか10回大会まで頑張るつもりですのでどうか応援のほどよろしくお願いします。

また、文化企画に関しては、残念ながら活動できませんでした。当初より進めていた「やつしろコマづくり」（高校生が作る本町のコマ屋のおじさん復活作品）が、危険と技術を伴うために思案中となっています。

まとめですが、スポーツ大会を通じて八代の活性化を目指すのであれば、やはり地元八代に強いチーム・学校がなければ、人は集まりません。地元高校等のスポーツの強化も欠かすことのできない課題かもしれません。

委員会の皆様や幹事会の皆様には、大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

広報情報委員会

委員長 松嶋宏平



広報誌の発行を主な活動とし、またホームページにて事業報告をしてきました。

4月に新年度号として、中村代表のご挨拶から各委員会の事業計画等を報告していた

できました。

2号は新年挨拶号として、竹永実行委員長の45周年事業の報告を中心に推進事業のサッカー大会や全日本柔道強化合宿の報告並びに、日奈久活性化委員会の経過報告として作成しました。そして、今回3号を各委員長の皆様の年間活動の報告として作成しております。

いつも、中村代表幹事には挨拶原稿を、また委員長の皆様方には、原稿作成のお願いして快くご協力いただきありがとうございました。

事業の報告や委員会事業には、タイムリーになるようにメルマガを利用して発信をしたり、ニュース速報をファックスで送信したりしましたが、これにつきましては、多少賛否があったようです。公開委員会などが広報を上手くできませんでした。

又、今年初めての試みとしまして、会員企業の広告を掲載させていただきましたが、ご協力を頂きました会員企業の皆様には感謝申し上げます。

今後の広報委員会への取り組みとしましては、各事業や活動を報告したくても写真が無いと説得力に欠けてしまいます。今後各委員長様には、写真担当を決めて活動を計画していただけたら助かります。とお願いをしまして年間報告いたします。

ご協力ありがとうございました。

まちづくり委員会

委員長 半田 由佳里



中村代表幹事、野尻副代表幹事の下、今年度初めての委員長をさせていただきました。

皆様にお尋ねしながら、手探りの委員会活動でしたが、ご協力いただきました、会員

各位には感謝申し上げます。

3月に第1回委員会を開催し準備をはじめ、第3回委員会に、第一回会員セミナーを開催いたしました。

演題は「中心市街地活性化基本計画認定後の状況について」として八代市役所の商政観光課課長の和久田敬史様をお招きして勉強会を開催いたしました。

八代市では、昨年中心市街地活性化基本計画の認定を受け、1年後の、商店街の状況、そして八代市の考え方をお聞きしました。

基本計画認定後の取り組み状況の説明をしていただき、ガラッパ広場整備、こどもプラザ事業、中心市街地住居促進事業、商店街連合イベント事業等が行なわれている状況を説明いただきました。また、基本計画のフォローアップに関する報告として、

- 「中心市街地の賑わいを取り戻す」…目標1547／日の通行量が平成19年度と18年度の比較では、898人／日減少。現状での目標達成は厳しい状況。
- 「街なか住居の促進」…現状で459人の人口増加が見込まれ目標達成。
- 「中心市街地の売上額」…目標に関して17年度と比較すると逆に-49,000万円となっており現状のままでは、目標達成は厳しい状況である事の説明があり、厳しい現状の説明がありました。私達経済開発同友会では今後委員会で何が出来るか？私達に何が出来るかを協議していくことでセミナーを終了しました。

以降3回の委員会を開催し、最終2月の委員会では、防衛省の守屋事務次官と直接お話をされた、和久田数臣さんに八代市へ自衛隊誘致の件での経過をお話いただきました。

今後の八代の課題を改めて知り大変勉強させて頂きましたことを感謝しまして、ご報告とさせていただきます。

第3回 Yatsushiro Cup 高校選抜バドミントン大会

委員長 松岡 隆志

開催日：2009年2月7～8日

場 所：男子（八代東高等学校）

女子（八代白百合学園高等学校）

主 催：Yatsushiro Cup 実行委員会

主 管：八代東高校バドミントン部・

八代白百合学園バドミントン部

後 援：八代市バドミントン協会

協 賛：八代よかところ宣伝隊・ヨネックス株式会社

男 子	
優 勝	熊本県立八代東高等学校
準優勝	日章学園高等学校
3 位	山口県立柳井商工高等学校
女 子	
優 勝	八代白百合学園高等学校
準優勝	九州国際大学附属高等学校
3 位	精華女子高等学校



日奈久活性化委員会

委員長 伊藤輝充



日奈久活性化委員会として、日奈久足湯建設促進期成会のこれからのタイムスケジュールを確認致しました。

1. 設置場所の最終確認：確認済み
2. 図面・工程表の作成及び積算案作成：3月末まで修整・決定予定
3. 期成会総会を開き、スケジュール確認、完成後の清掃等メンテ合意
4. 附帯事業及び足湯名称の一般公募の手法確認：4月中旬
5. 建築部材の発注及び作成：5～6月
6. 着工：6月上旬
7. 完成：開湯600年イベントに合わせ、完成イベントを行う。

以後の活用及び清掃・メンテナンスについて(案)

期成会総会にて構成団体との覚書を取り交わし、期成会を発展的に解散し、その後の方向性を予め決めておく。

総務統括委員会

委員長 吉武卓也



1. 4月21日
平成20年度定時総会並びに懇親会
2. 5月22日
5月例会 スポーツ例会(ボウリング大会)

2ゲーム 於JOYプラザ
表彰式 於 八代グランドホテル
委員会 1～3位

個人 1～3位 ブービー賞

3. 6月27日
平成20年度慶寿の会 於 新大阪屋
還暦：飯田 哲氏、伊藤俊昭氏、
鹿島正雄氏
古希：島 興人氏
4. 7月30日
7月例会
演題 「伝えるってむずかしい・伝えられたらおもしろい」
講師 (株)リコーコーポレートコミュニケーションセンター所長兼ブランドマネジメント戦略室長 轡田 正郷氏
5. 9月25日
9月例会 「45周年アワー」
45周年実行委員会より事業内容報告
各部会より報告(記念事業部会・親睦部会・ビジョン策定部会) 委員会毎に意見交換会
6. 10月28日
10月例会「いきいき経済委員会アワー」
内容：(1)いきいき経済委員会より報告
委員会では、2020年、人口150,000人を目指して、八代の産業形態の調査・研究、八代の特性の調査・研究を目的として、会員を対象にアンケート調査を実施致しました。そのアンケート調査の発表、提言書作成に向け例会を通じて報告
(2)9月例会45周年アワー報告
・各テーブル議事録報告
7. 11月28日
臨時総会並びに
平成21年度代表幹事を囲む会
議案：1号議案
平成21年度代表幹事選出に関する件
2号議案 その他
8. 1月29日
臨時総会並びに新年度役員を祝う会
議案：1号議案
平成21年度役員選任の件
2号議案 その他

9. 2月26日
2月例会
演題：「新市(合併後)の4年間とこれからの八代市の戦略」
講師：八代市長 坂田 孝志氏
10. 3月24日
3月例会
第1部 平成20年度委員会報告各委員長
45周年記念事業報告
竹永45周年実行委員長
第2部 講演 演題「私の履歴書」
講師 中村 重之氏

いきいき経済委員会

委員長 中山 英 朗



今年の「いきいき経済委員会」では、低迷している八代の経済をどのようにすれば活性化できるのだろうかという課題に焦点を絞り話し合い、地方に於いては人口の増加が

地域の活性化に繋がるという結論になりました。そこで私達は、八代地域を中心に生業を行なっている経済人として、または、地元の商店主として、『20年後（平成40年）の八代市の人口目標を15万人』を目指して様々な提言が出来るかを委員会活動の目標として展開しました。その手始めとして、八代の業種の縮図と思える会員の皆様の実態を知るべく会員の皆様にアンケートを実施しました。

現在の八代企業が景気展望をかなり厳しく感じている事や「人口増加」には企業誘致を望んでいる事地場産業の活性化が多くを占めました。少数の意見に、教育環境の充実・スポーツイベント・育児支援・社会福祉の充実・住宅購入費補助・文化事業の活性化などなど色々なヒントになるアイデアを知ることが出来ました。又その結果を、10月例会時に時間を頂き報告し

ました。

本来この結果を踏まえて、今後の経済活動の展望を提言できればと考えていましたが、現状を分析する事で留まってしまいました事を、お詫びして活動の報告とさせていただきます。

ふるさと再発見委員会

委員長 飯 田 哲



ふるさと八代は、古来より日本の歴史の中で、とぎれなく栄えてきた町です。古代の遺跡や古墳も多く残り、中世には、良港に恵まれ大陸との往来も盛んに行なわれ八代平野を中心に地方文化の華を咲かせました。

全国的に有名な「彦一とんち話」の民話「くま川ガラッパ伝説」かく時代時代の史話、豊富な歴史や、貴重な文化財などふるさと八代が育んできたものです。「歴史の中に教訓あり」ふるさと八代を知ることこれからのやつしろの発展を考えなければならないと思います。

一年間なかなか思うように進めませんでした。次年度の委員会に何かの形でつなげたいと思っています。

一年間なかなか思うように進めませんでした。次年度の委員会に何かの形でつなげたいと思っています。

新入会員紹介



平山 浩子

平成21年1月
(有)OFFICE メセナ
八代市古閑浜町3448-41
☎0965-32-7123

2月例会

2月26日、木曜日八代グランドホテルに於きまして、八代市市長坂田孝志様をお迎えして開催されました。『「元気と活力のあるまち」を目指して』の演題で、現在の八代市の総合基本計画に準じた街づくりの取り組みや、活力ある産

業プロジェクト・子どもが健やかに育つプロジェクト・良好な環境を未来へつなぐプロジェクト・安全安心なまちプロジェクト・人が集まるプロジェクトの5つの重点プロジェクトに付きまして、詳細にご解説頂き、将来へ向かってのやっしる創りをみなさんと一緒に作り上げましょう。と力強く語られました。



鵬際100号記念

「鵬際」鵬は翼の幅3,000里、一飛びで90,000里という伝説上の中国の鳥。そこで鵬（おおとり）が飛ぶ（＝はるかなかなたの）空のことを言う。「際限のない」という意味でも使われる。私たち経済開発同友会の目指す活力ある八代づくりも、言わば際限のない努力を必要としますが毎年この機関誌を出す事によって一歩一歩目標に近付きたいものです。その願いを込めて誌名を「鵬際」と名付けました。尚、題字は本島小夜子先生にお願い致しました。



第1号



第10号



第20号



第30号



第40号



第50号



第60号



第70号



第80号



第90号